

中国雲南省

## 現金をもっている使えない！ 電子化が進む中国



(左)お寺の賽銭箱の上にあった QR コード。お賽銭はまだ現金を受け付けている。  
(中)タクシー運転手が出した QR コードのカード。(右)レストランなどではこのように QR コードを掲示。レジがない。

久しぶりの中国で最も大変だったのが、支払い方法です。

現金を4,000人民元(約6万円)ほどもっていったのですが、昆明のどのお店でも現金はほとんど受け付けてくれません。これには参りました。

昆明に到着し、おなかがすいたので小さなレストランに入りました。昆明名物のそば、過橋米線を食べたのですが、ここで現金を出すと拒否されました。中国の IT の最大手アリババグループの決済アプリ「支付宝」(アリペイ)か IT 企業テンセントが開発した決済アプリの微信支付(英語名では WeChatPay)でのいずれかの支払いにしてくれと。幸い友人がいたので、その場はなんとかしのいだのですが、これはある種のカルチャーショックでした。

中国の電子マネー化は驚くほど進んでいます。「キャッシュレス化は人口1,500万人にのぼる昆明市だからだ」と高をくくっていたのですが、雲南省の町や村々を訪れたときでさえも、ほとんどがキャッシュレス。村の小さな雑貨屋や食堂でさえも、現金はほとんど受け付けてもらえず、上記のアプリでの決済なのです。この徹底さはなかなか他の国では経験できないでしょう。

キャッシュレス化は商店やレストランだけではなくありません。タクシーやバス、電車のチケットのほか、自動販売機など支払うところはほとんどが電子化されています。つまり、スマートフォンの携帯電話を所持していないと何も買い物ができないという社会になっているのです。決済アプリをもたない外国人にとってはなかなか大変です。

それでは、実際にどうやって支払うのでしょうか。タクシーに乗ったときのこと。目的地に着いたとき、運転手がおもむろに QR コードが印刷されたカードほどの紙を見せてきました。この QR コードを携帯電話でスキャンすれば、支払いは完了。運転手は支払ったのかどうかの確認もしなかったのですが。また、長距離電車のチケットを買うにも電子マネーで、さらに、チケットは紙では出でず、すべてメールに送られるという徹底した電子化です。

財布を出す必要はまったくなく、というより、中国人たちはもはや財布を持ち歩いていないのではないのでしょうか。中国で紙幣がなくなる日も近くなりそうです。